

『減災対策』の取り組み 事例紹介

神戸市、芦屋市、伊丹市、篠山市

減災対策

ハザードマップによる 危険箇所の周知の取り組み

神戸市 建設局防災部防災課
危機管理室

1. くらしの防災ガイドの全戸配布

○毎年6月上旬の梅雨時期前に市内全世帯（約72万世帯）に配布

○避難行動に関する基礎知識やハザードマップなどの情報を掲載



○今年度の改定内容

①時間のない方でも見てほしい情報と、もっと詳しく知りたい方に見てもらう情報との2部構成に再編

【目次】

時間のない方も、ココだけはチェック!

自分の命は自分で守る

危険な場所を知る

災害、避難行動を知る

ご自宅や学校、職場の周辺をチェック!

地図① 土砂災害・水害に関する危険予想箇所図
地図② 神戸港津波ハザードマップ

災害ごとに異なる避難先をチェック!

避難場所を知る

もっとくわしく知りたい方は、ココ!

1 わが家の災害・避難メモ 2 基本的な避難の流れ 3 災害情報の入手 4 今日から、すぐにできること

5 災害時の避難先(緊急避難場所・避難所)

6 風水害を知ろう 7 台風・大雨の際の避難行動 8 地震・津波災害を知ろう 9 地震・津波災害時の避難行動 10 災害情報を入手するために 11 日ごろの備え

②自分で書き込む避難メモの欄を追加

1 わが家の災害・避難メモ 本紙を見ながら、あなたやご家族全員の避難ルール、いざというときの連絡方法について話し合い、記入しておきましょう。

家族との連絡方法

家族が離ればなれになったときの集合場所
(記入例:○○小学校)

家族の安否の確認方法 [10]をチェック!

災害用伝言ダイヤル171 災害用伝言板(web171)
 災害用伝言板 SNS()
 その他()

災害情報の入手方法を確認

必ず複数の方法でチェック!

テレビリモコンdボタンの操作確認 [3]をチェック!
 ひょうご防災ネットに加入する [10]をチェック!
 携帯ラジオを準備
 防災行政無線の試験放送を確認(毎月17日17時)
 携帯端末が緊急速報メールを受信できるか確認 [3]をチェック!

避難の際、家族の中で手助けが必要な方がいますか?

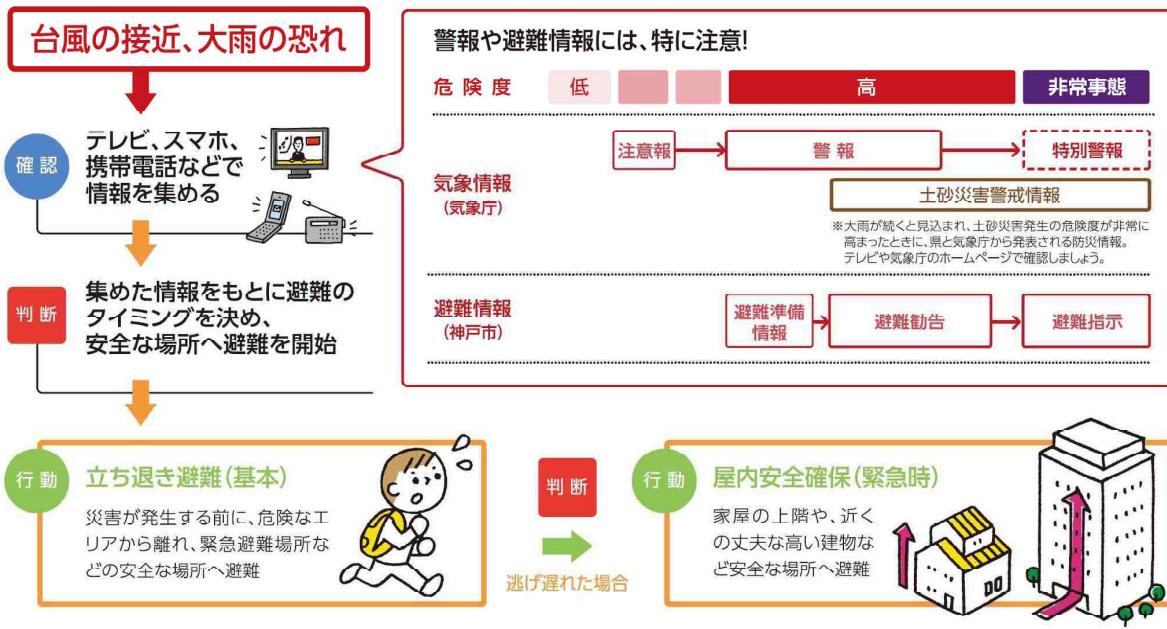
いない いる

わが家の避難ルール 要チェックページ それぞれの災害について▶[地図①] いつ▶[7][9] どこへ▶[5][地図①]

| 記入例・注意点 | 判断 (避難行動開始) | 行動 (安全な場所) | 避難にかかる時間 | | |
|-------------------------------|----------------------------------|-----------------|------------------|------------------------|-----------|
| | | | ①準備(分) | ②移動(分) | ①+②=合計(分) |
| 大雨警報、土砂災害警戒情報、津波警報、避難勧告の発令時など | ○○小学校、○○高校、親せきの家 国道○号より北へ(津波) | 事前に準備しておけば、短縮可能 | 避難所まで実際に歩いて確認しよう | 合計時間から、いつ避難を開始すべきか見直そう | |
| 洪水 | | | | | |
| 土砂災害 | | | | | |
| 地震(津波なし) | | | | | |
| 地震(津波あり) | | | | | |

③避難の流れを図で解説

台風・大雨のとき



2. スマホでも確認できる Web版ハザードマップの作成

- GPS機能を用いて現在地の危険箇所を簡単に確認できる
- 便利なGoogleMapを使用
- 地図の拡大縮小も可能
- 航空写真でも確認できるので、危険箇所がわかりやすい
- 今後、災害弱者（外国人）への対応として、多言語化を行う



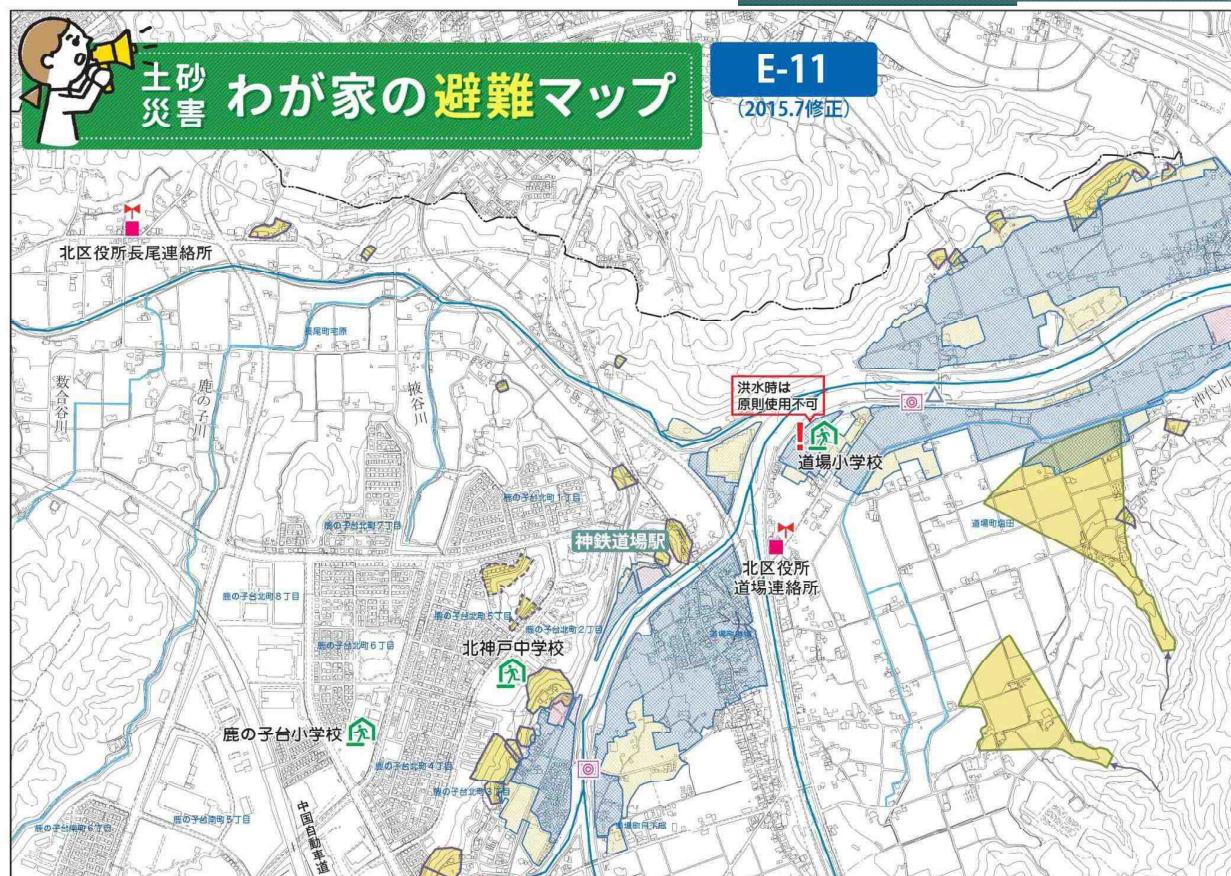
3. 「土砂災害 わが家の避難マップ」の配布

平成27年6月に、土砂災害警戒区域や避難先を確認し、自ら避難ルートを書き入れることができるマップを配布

- ・配布数： 54万世帯
- ・配布エリア： 土砂災害警戒区域
及びその周辺地域

①土砂災害警戒区域や緊急避難場所などを分かりやすく記載

②自宅周辺の状況をより詳細に確認できるように配布地域ごとに地図を大きく表示



③ マップの作り方(チェックポイントや作成手順)を丁寧に解説

避難マップの作り方

【用意するもの】わが家の避難マップ(本紙)、ペン、その他(ふせん、カスラ、腕時計)など

1 白宅周辺の危険なエリアをチェック

まずは白宅の位置を確認し、印を付けましょう。次に白宅周辺の土壌災害警戒区域(イエローゾーン)などの危険な箇所をチェックしましょう。

2 緊急避難場所などの避難先をチェック

必ずすることを避難先は、災害のおそれがある区域から距離を離す間にめざすのが「緊急避難場所」。マップには、以下の種類のマークで示してあります。また、老人や障害者のなど、安全な場所があれは、そこも避難場所として記入しましょう。

3 避難先までの避難ルートを書き込む

以下のボタンに気をつけながら、自らから避難先までの避難ルートを書き込みましょう。

4 実際に歩いて、避難ルートをチェック

マップ上で確認した避難ルートを実際に歩き、危険な場所や注意点などをチェックして、危険な場所には「×」を。注意が必要な場所(△)を、歩きやすい場合は、△印を。さらにどちらかが、コストを表示して分かりやすくしましょう。

5 「わが家の避難マップ」完成!

完成した「わが家の避難マップ」は、いつでも目に見つく場所や手くごろに保管しましょう。

わが家の避難マップ作成例



ご清聴ありがとうございました